

平和憲法・9条をまもる 岩手の会 ニュース No.191

2021. 9. 1

発行：平和憲法・9条をまもる
岩手の会 実務者会議

連絡先 県生協連・県消団連

TEL 019-684-2225

FAX 019-684-2227

平和の大切さを学び、次世代への継承と核兵器廃絶に向け 取り組みを共有 —いわて生協—

《平和のつどい》

いわて生協では、毎年8月9日に「平和のつどい」を盛岡市高松の池の平和祈念像「望み」の前で開催しています。今年も、子ども6名を含む約30名の参加で行いました。

「望み」像は、終戦50年の1995年に、平和・不戦の象徴として、いわて生協が中心となって県内諸団体と募金活動に取り組み、2万人以上の県民の募金で設置を実現したものです。つどい当日は、今にも雨が降りそうな曇り空でしたが、開催30分以上前から参加者が集まり、像や敷地の清掃・草取りをしました。

例年全国各地から広島・長崎に集まって開催していた日本生協連主催の「ピースアクション in ヒロシマ」は、コロナ禍で昨年に引き続きオンラインでの開催でした。「平和のつどい」では、そのピースアクションに参加した方々が、「実際に行けなかったけれど、限られた中で平和への思いを聴くことができた。」「原爆投下の恐ろしさを聞いて、自分も伝えて行きたい」などの感想を話しました。

長崎への原爆投下の11時02分には、参加者全員で黙とう。遠い長崎の地に平和と核兵器廃絶の思いを馳せました。



《夏休みピースアクション》

いわて生協では、県内各地で毎年夏に親子や友人と平和について考え合う「ピースアクション」に取り組んでいます。コロナ禍で昨年は中止になりましたが、今年は規模を縮小して行われました。

一関では、「ライオンの涙」というお話の紙芝居を取り上げ、実際に起きた出来事から平和について考え合いました。戦時中、空襲や食糧不足を懸念して大型獣の殺処分が行われ、興行中の曲馬団の人気者ライオンの親子4頭も射殺されましたが、ライオンは殺される前に涙を流したというお話です。子ども8名、大人15名の参加者は、幼稚園児のお子さんも含め紙芝居を真剣に見入っていました。

76年前に起きた事を遠い昔の出来事ではなく、もっと身近な事として捉えてもらえたのではないかと思います。

《参加者の声》

◇自分の学校の学習発表会では戦争のことをやっています。平和が大事だと思います。人だけではなく、ライオンも殺すなんて、かわいそうだと思います（小6の女の子）

◇いちのせきにも、アメリカのミサイルがついらくしたのがわかりました（小1の男の子）

◇へいわはたいせつだとおもいます。ライオンがかわいそうだったです（幼稚園の女の子）

◇戦争について、特に子どもたちはピンと来ないところはあるかと思いますが、命を考えるきっかけになればいいと思いました（大人）

◇実際にあったことで、より身近な感じられました。

なぜ、動物も殺さなければならなかったのか、深く考えさせられました（大人）



ピースアクションinヒロシマ(8/4~5)・ナガサキ(8/7~8) オンライン開催

被爆者の証言、遺構・慰霊碑についての解説動画を交えた碑めぐり、平和紙芝居や子ども平和会議などをオンラインで開催。全国から95生協のべ6,500人が参加。岩手の参加者からは、「戦争により突然家族を失い、何年たっても後遺症の恐怖がある。戦争は絶対にあってはいけない」「戦争の悲惨さを伝えるデジタルアーカイブの価値の大きさがよく分かった。地道な証言採集活動があることも忘れずにいたい」「『今年は戦後76年。100年までにどう繋いでいくか大切な25年、そのスタートとなる』という言葉が心に残った。被爆者はどんどん少なくなるが、その子どもたちがこれからも平和活動の輪を広げていけるよう、私たち大人ができることを考えていかなければ」などの感想が出されました。

＜新リーフレットのお知らせ＞

宣伝・署名行動、学習等でご活用ください！

キケンすぎる『自民党の改憲4項目』

改憲阻止リーフ「いま、やること？」

全国市民アクション作成の、A5判のカラーリーフレットです。無料で差し上げますので、必要部数を岩手県生協連までご連絡ください。



コラム＝ 一終戦から76年、全国戦没者追悼式をどのように迎えましたかー

去る8月15日、終戦から76年を迎え、政府主催の全国戦没者追悼式が東京都千代田区の日本武道館で開催されました。コラム子は毎年遺族ら参列者とともに、戦争の惨禍の記憶の継承を誓う気持ちを新たにしています。皆さんはいかがだったでしょうか。

コラム子は、歴代首相が式辞で触れてきた“アジア諸国への加害と責任”について、第二次安倍政権になってから一貫して言及しなくなったことが、とても気になってきました。そしてこのことに関して、戦争の惨禍に言及する天皇の「お言葉」と、このことに言及しない安倍首相と菅首相の「言葉」に今年もとても違和感を感じました。

まずは見てみましょう。天皇の「お言葉」。「…ここに、戦後の長きにわたる平和な歳月に思いを致しつつ、過去を顧み、深い反省の上に立って、再び戦争の惨禍が繰り返されぬことを切に願い、戦陣に散り戦禍に倒れた人々に對し、全国民とともに、心から追悼の意を表し、世界の平和とわが国の一層の発展を祈ります」。

次は菅首相の「言葉」。「わが国は、戦後一貫して、平和を重んじる国として歩んでまいりました。世界の誰もが、平和で、心豊かに暮らせる世の中を実現するため、力の限りを尽くしてまいりました。戦争の惨禍を、二度と繰り返さない、この信念をこれからも貫いてまいります。わが国は、積極的平和主義の旗の下、国際社会と力を合わせながら、世界が直面するさまざまな課題の解決に、全力で取り組んでまいります。今なお、感染拡大…」と。

コラム子は、天皇については日本国憲法第一章に規定される「天皇」であることに政治思想上は共存したいのですが、天皇の「お言葉」の方が国民の追悼の気持ちとぴったりではないでしょうか。

何故こんなことになるのでしょうか。菅首相たちは、侵略戦争正当化論者である「日本会議」に支えられる政権だからです。このことを正しい歴史認識でしっかり見て、今改めて「侵略戦争反対」の声を大きくあげましょう。

(T)

「9条改憲NO！改憲発議に反対する全国緊急署名」（8月末現在）

岩手の署名数 2万3千筆

9月の街頭宣伝署名活動 9日(木)12:15~12:45 盛岡市大通・野村證券前

人との間隔をあけ、宣伝行動を中心に行いながら、「改憲発議に反対する全国緊急署名」を呼びかけます。ご都合のつく方は、ご参加ください！ ※雨天または新型コロナ感染状況により中止の場合あり